



<先進地紹介>

**善光寺表参道地区におけるまちづくり交付金事業について
(長野県長野市)**

茨城県 大洗町

都市建設課 主事 根本英昭

去る平成21年11月19日・20日の2日間、今年度の茨城県都市計画協会先進地視察に参加させていただき、長野県長野市と下諏訪町を視察いたしました。その中でも長野県長野市の特色あるまちづくりを紹介します。

【長野市の概要】

長野市は、長野県北部にあり、市の人口380,883人で世帯数は148,121世帯、面積は834.85km²という規模の自治体です。(平成21年4月1日現在)

善光寺の門前町として有名ですが、門前町としてのみならず、周辺の観光地への前線としても重要な位置を占めています。

**【まちづくりの背景】**

長野県長野市表参道地区は善光寺の門前町として古くから多くの参拝者を集め、永く本市の中心市街地として栄えてきた。また、長野オリンピック開催時の表彰式会場としても利用され、様々な場面で賑わっていた。

しかし、近年の郊外型の開発に伴い、中心市街地の人口は流出し、更に大型店の相継ぐ撤退等により、まちなかの衰退・空洞化が顕著に現れていた。

このような現状を打破するために、学識経験者や民間諸団体、地域住民主体で協議してきた中心市街地活性化基本計画（長野地区）による取組みをさらに効果的に展開するため、まちづくり交付金を導入し、本地区の中心市街地の活性化並びに商店街の賑わい再生を図っていくことになる。

【長野市のまちづくり交付金事業】

長野市は、歴史的資源を生かしたまちづくりを進めるための一つの方策として、国土交通省所管の支援制度である、まちづくり交付金事業を活用しています。まちづくり交付金とは、市町村の各種事業をパッケージとして支援するもので、ハード事業からソフト事業まで幅広い事業に活用が可能な制度です。長野市における都市再生整備計画の概要は以下のとおりです。

◆地区名：善光寺表参道地区

◆面積：123ha

◆交付期間：平成17年度～平成21年度

◆交付対象事業費：3,926.5百万円

◆目標：『歩いて楽しめるまち』

・善光寺表参道を主軸とする門前の中心市街地への交通アクセスの向上、及び計画区域内の再開発事業や歴史・文化的資源との連携により、善光寺表参道を軸とした回遊性の向上と賑わいを誘導するところを目指す。

◆指標

・快適で魅力的な歩行者空間を整備することにより中心市街地の回遊性を高め、来街者及び来店者数を増加させることを確認目標（賑わい指標）とした。

歩行者・自転車

53,620人/12h (H16) → 64,400人/12h (H21)

大門地区 TMO 施設来店者

15,783人/年 (H15) → 19,000人/年 (H21)

表参道沿線空き店舗率

7.4% (H16) → 5.9% (H21)

【都市再生のポイント】

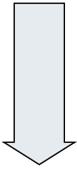
長野駅から善光寺を結ぶ善光寺表参道約2kmを計画の柱に置き、「歩いて楽しめるまち」をポイントとして、まちなかの回遊性の向上と賑わいの復活を目指している。そのための核となる拠点づくりとそれを結び付けるための事業を盛り込んでいる。

善光寺表参道を中心に整備が終わった各拠点を「点」から「線」として結び、更に回遊性を高め、「線」から「面」へと中心市街地の活性化への波及を図る。



◇ 点 (拠点) 長野駅, 長野駅前地区開発事業

長野銀座地区再開発事業
ばていお大門 (TMO 事業)
もんぜんぶら座



◇ 線 中央通り歩行者優先道路事業



◇ 面 商店街への波及効果



【善光寺表参道地区の特徴的な取り組み】

次に善光寺表参道地区のまちづくり交付金の特徴的な取り組みを見ていきます。

長野市におけるまちづくり交付金事業でも特筆すべき部分として、「歩いて楽しめるまち」を目標とし、計画の中核(コア)事業として位置付けている中の一つに「中央通り歩行者優先道路化事業」があります。この事業は、約2キロある善光寺表参道のうち、約七百メートルの区間において、車道の一部と歩道を歩行者空間として開放することにより、善光寺表参道としての魅力の向上と機能充実を図り、区間内の通過車両を減らすことと併せて、歩行者にとって歩きやすく、散策や買い物がゆっくり楽しめる、賑わいのある通りを目指しています。

具体的には、道路空間を開放し、一般車両を排除、バス等の公共交通機関のみを通行させながら、屋台やオープンカフェなど車両交通以外の使い方を試みたり、善光寺表参道を花で飾るイベントである「善光寺花回廊」と実施時期を合わせていて、期間中には多くの来街者で賑わいをみせているようです。

表参道を歩行者優先道路にし、そこで様々なイベント等を行うことによって、多くの人々を呼び込み、その通りにある商店街への経済的波及効果をもたらすことが期待できるので、門前町の再生に一役買っています。

【善光寺周辺地区の景観】

長野市では、景観形成への取り組みも行われています。中でも、善光寺周辺地区は、約1,400年前に開かれた善光寺を中心とした門前町で、土蔵づくりの商家の街なみなど特徴ある景観が残されていて、参道を歩いていると歴史と文化の香りが漂うまちなみに魅了されました。



山門までの参道石畳



山門(三門)【国指定重要文化財】

善光寺周辺では電線の地中化や道路の美装化を行い、美しいまちなみの形成に努めています。上記の写真のような歴史的建築物や風景は国民の財産であり、地元住民にとっては宝であると同時に誇りでもあると思います。

郷土長野の先人達の文化を守り伝えていくことがこの地区の再生、発展に繋がっていくのだと感じました。

【おわりに】

町に古くから根付く文化や歴史的建築物などの既存の資産に息吹を吹き込み、再び門前町が輝き放っているのを目の当たりにして、この成功の裏には地域の住民と行政が協働し、町の再生のために長い年月をかけて実施してきた地道な活動が身を結んだのだと思います。

歴史的資産に現代の知恵や感覚を加えることで、再価値化を図り、地域の「個性」を生み出していくことが、人を引き付ける魅力的なまちへ再生する第一歩なのかもしれません。